

## いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える



### 岩手県における過去の津波災害—明治三陸津波—

岩手大学工学部社会環境工学科准教授

小笠原 敏記

2011年3月11日、東北地方太平洋沖で発生した地震は、巨大津波を引き起こした。この津波によって、我々は自然災害の恐ろしさをより身近に感じ、ひとたび引き起こされると大災害になることを改めて思い知らされた。

岩手県三陸地方は、これ以前にも幾度となく津波の脅威を受けてきたが、歴史的に大きな被害を受けた1896年の明治三陸津波について述べたいと思う。

1896年(明治29年)6月15日は、陰暦の5月5日にあたり端午の節句であった。男の子をもつ家々では、端午の節句を祝う酒宴がささやかであるが開かれていた。同時に、日清戦争役から凱旋してきた将兵たちの祝賀会も各地で催されていた。また、近年まれな大豊漁も手伝い、日が暮れた頃には、それらを歓迎する酒宴は、より一層のぎわいとなった。そして、午後8時2分ごろ、三陸はるか沖で発生した地震は、三陸沿岸地域をゆったりと揺らした。その震度は小さく(震度2~3;中央気象台)、地震による被害は小さかった。しかしながら、この弱震が起きてから20分ほど過ぎた頃、海上では大きな異変が起こり始めていた。その結果、当時日本最大の津波が三陸海岸を襲ったのであった。その後、間隔をおいて2波、3波と襲来し、波高は徐々に低くなっ

たが、襲来した回数は、翌16日の正午頃まで数十回にも及んだ。地震の揺れが小さいにも関わらず、緩やかで長く続いた地震動から発生した巨大津波であった。このような地震を津波地震(低周波地震)と呼んでいる。

津波襲来時の海面から陸地を這い上がった地点までの高さを遡上高と呼んでいる。三陸海岸は、くさびを打ち込んだような深い湾を有しているため、その最大値は、三陸町の綾里湾奥で38.2mを記録した。これは明治以降日本で発生した津波では、東日本大震災以前の最高記録であった。この大津波による犠牲者は、2万人を超え、その内約1万8千人が岩手県であった。当時の岩手県の住民数は、約69万5千人であったことから、約40人に1人が亡くなったことになる。一家全滅した家もまた、数多くあった。このような状況の中、復旧作業は徐々に進められたが、被害が大きければ大きいほど、その復興は難しく、漁船、漁具を失った各漁村では、その後3年間

は漁もできず、貧困化が深刻な問題となった。海は、人々に多くの恩恵を与えてくれる反面、人々の命をおびやかすような過酷な試練をも課すことを忘れてはならない。